

# 第3部 資料



申込みは  
5月24日(日)  
の説明会にて

平成27年度  
調布市平和祈念事業



# 調布市 中学生 広島平和派遣

## 参加者募集

～戦後70年のこの夏、広島での平和記念式典に参加し、  
戦争の悲惨さや平和の大切さについて学びませんか～

原爆ドーム、平和記念式典、とうろう流し、

平和記念資料館 被爆体験者講話などの参加・見学

日程

**8月5日(水)～8月7日(金) (2泊3日)**

- 募集人数 8人 ※応募多数の場合は書類選考を実施  
(選考結果は平成27年6月中旬ごろ郵送にて通知)
- 参加費用 3万円(実費の半額程度)
- 応募対象 市内在住の中学生 ※参加後に感想文を提出していただきます。
- 説明会 5月24日(日) 午前10時から11時まで  
文化会館たづくり 8階映像シアター

申し込み

※申込書は、本人もしくは保護者が直接お持ちください。  
(郵送不可)

**5月24日(日)説明会後に申込書を提出ください。**

※説明会に参加できない方は5月22日(金)までに  
市役所8階文化振興課へ申込書をお持ちください。

(平日の午前8時30分から午後5時まで※正午から午後1時までを除く)

申込書は市ホームページからダウンロードするか8階文化振興課まで

調布市生活文化スポーツ部文化振興課文化振興係(市役所8階)

お問い合わせ 電話 **042-481-7139**



## 行程表

月日	行程
5日 (水)	調布駅(7時頃集合) ⇒ 東京駅(8時頃発) ⇒ 広島駅(13時頃着) (京王・JR) (新幹線) ⇒ 原爆ドーム・原爆の子の像 ⇒ リパークルーズ ⇒ 宿泊先(16時頃着) ⇒ 夕食 
6日 (木)	宿泊先 ⇒ 平和記念式典 ⇒ 広島平和記念資料館 ⇒ 昼食 ⇒ 平和記念公園周辺 ⇒ 宿泊先 ⇒ 夕食  ⇒ とうろう流し ⇒ 宿泊先
7日 (金)	宿泊先 ⇒ 被爆体験者講話 ⇒ 昼食 ⇒ 広島駅(13時頃発) ⇒ 東京駅(18時頃着) ⇒ 調布駅(19時頃解散) (新幹線) (京王・JR) 

## 実費額

項目	概算金額	自己負担額
交通費(新幹線運賃料金)	36,620円	
宿泊費(朝食付き)	26,000円	
食事料(昼食・夕食)	8,000円	
傷害保険	500円	
合計	71,120円	

## その他

- 当日は添乗員・看護師・市職員が同行します。
- 東京駅から広島駅まで(往復)は新幹線(のぞみ)を利用します。
- 宿泊先は平和記念公園周辺を予定しています。
- 食事は1日目(昼食・夕食)2日目(朝食・昼食・夕食)3日目(朝食・昼食)を用意します。
- 調布市内のイベント等で折った折り鶴を「原爆の子の像」に捧げます。
- 国内旅行傷害保険に加入します。
- 上記内容はすべて参加費用に含まれます。

## 説明会 会場



## 説明会内容

5月24日(日)午前10時～

場所 文化会館たづくり  
8階映像シアター

- 10:00～ 事業概要(申込み, 参加費用, 選考)
- 10:10～ 体験内容(スケジュール, 注意事項)
- 10:40～ 今後の予定(参加者向け説明会, 実施後)
- 10:50～ 質疑応答
- 11:00～ 申込受付

## 平成27年度 調布市中学生広島平和派遣 申込書

ふりがな 参加者氏名	男・女	生年月日	平成 年 月 日
学 校 名	中学校 年 組		
参加者住所	〒 調布市  (自宅) ( )		
本人確認欄	私は、「調布市中学生広島平和派遣」に参加することを希望いたします。  本人 氏名 _____		

(裏面に参加希望理由を記入してください。)

\*\*\*\*\*ここから下は保護者の方が記入してください。\*\*\*\*\*

ふりがな 保護者氏名	男・女	
保護者住所	〒 調布市  (自宅) ( ) 緊急連絡先(日中連絡が取れる連絡先を記入ください) (TEL) ( )	
参加者の健康状況	1 参加者の慢性的な病気等がありますか。 ない  ある  病名 ( ) 2 日常的に服用している薬はありますか。 ない  ある  病名・薬名 ( ) 3 アレルギー体質はありますか。 ない  ある  症状・食品制限など ( )	
保護者承諾欄	上記の者が、「調布市中学生広島平和派遣」に参加することを承諾いたします。  保護者氏名 _____ 印 (参加者との続柄) ( )	

調布市記入欄	
--------	--



被爆70周年

THE 70TH ANNIVERSARY OF THE ATOMIC BOMBING

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式  
HIROSHIMA PEACE MEMORIAL CEREMONY

平成27年(2015年)8月6日

August 6, 2015

広島市

The City of Hiroshima

## 式次第

## Program

開 式	8 : 00	Opening
原爆死没者名簿奉納 広島市長 遺族代表	8 : 00	Dedication of the Register of the Names of the Fallen Atomic Bomb Victims Mayor of Hiroshima Representatives of the bereaved families
式 辞 広島市議会議長	8 : 02	Address Chairperson of the Hiroshima City Council
献 花 広島市長 広島市議会議長 遺族代表・こども代表 被爆者代表 来 賓	8 : 07	Dedication of Flowers Mayor of Hiroshima Chairperson of the Hiroshima City Council Representatives of the bereaved families and children Representatives of the atomic bomb survivors Distinguished guests
黙とう・平和の鐘	8 : 15	Silent Prayer and Peace Bell
平和宣言 広島市長	8 : 16	Peace Declaration Mayor of Hiroshima
放 鳩		Release of Doves
平和への誓い こども代表	8 : 22	Commitment to Peace Children's representatives
あいさつ 内閣総理大臣 広島県知事 国際連合事務総長	8 : 26	Addresses Prime Minister of Japan Governor of Hiroshima Secretary General of the United Nations
ひろしま平和の歌 (合唱)	8 : 40	Hiroshima Peace Song (chorus)
閉 式	8 : 45	Closing

## 式 辞

本日ここに、安倍内閣総理大臣をはじめ、ご来賓各位、被爆者、ご遺族の方々のご臨席と、国内外から多くの方々のご参列のもと、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式を挙げるにあたり、原子爆弾の投下により犠牲となられた御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

本年、広島は、人類史上最初の原子爆弾による惨禍から70年目を迎えました。一瞬にして街が壊滅し、多くの尊い命を失うという悲惨な体験をした我々広島市民は、これまで一貫して被爆の実相や核兵器の廃絶、世界恒久平和の実現を全世界に対し、訴え続けてまいりました。

しかしながら、こうした私たちの願いに反し、現在も地球上には数多くの核兵器が存在し、人類の生存を脅かし続けております。

また、今春開催されたNPT再検討会議は、中東の非核化を巡る対立により最終文書が採択されず閉幕するなど、核兵器廃絶への道のりは依然として険しい状況にあります。

こうした中、来年、我が国において主要国首脳会議が開催され、ここ被爆地広島ではそれに先立つ外相会合が開催されます。これを機に、核保有国を含む各国の為政者が、直接、被爆の実相に触れ、復興を遂げた現在の広島を見て、平和の尊さをしっかりと心に刻み、核兵器廃絶への揺るぎない決意を、全世界に向け発信されることを望みます。

被爆70周年の節目の年にあたり、私たちは、今一度、核兵器の残虐性や非人道性を訴え、決意を新たに、一日も早い核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、全力を尽くすことを、ここにお誓い申し上げます。

終わりに、原子爆弾の犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお後遺症に苦しんでおられる被爆者並びにご遺族の方々への援護が一層充実強化されまじよう念願いたしまして、式辞といたします。

平成27年（2015年）8月6日

広島市議会議長 永田 雅紀

## Address

August 6, 2015

Today we are joined by Prime Minister Shinzo Abe, other distinguished guests, atomic bomb survivors and bereaved families, as well as many citizens from Japan and around the world at the Peace Memorial Ceremony to pay our deepest respects to the souls of atomic bomb victims.

This year, Hiroshima commemorates the 70th anniversary of the calamities caused by the first atomic bombing in human history. In a single moment, our city was reduced to ruins and many precious lives were claimed. We, the citizens of Hiroshima who experienced this disaster, have continuously appealed to the rest of the world for recognition of the consequences of the atomic bombing and for the realization of nuclear weapons abolition and lasting world peace.

However, contrary to our wishes, a large number of nuclear weapons exist on Earth and continue to threaten all of humanity. Moreover, the 2015 Review Conference of the Parties to the Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons (NPT) that was held this spring closed without the adoption of a final document due to disagreement over denuclearization in the Middle East. As such, the path to the elimination of nuclear weapons remains grim.

Against this backdrop, the A-bombed city of Hiroshima will host a meeting of foreign ministers in advance of the summit meeting to take place in Japan next year. We hope to use this meeting as an opportunity for policymakers from nations around the world, including nuclear weapons states, to come into direct contact with the realities of the atomic bombing, witness our fully recovered city, take the sacredness of peace to heart, and convey to all the world their unwavering resolution to abolish nuclear weapons.

In this landmark 70th anniversary year, once more asserting the cruel and inhumane nature of nuclear weapons, we pledge with renewed determination to put all our efforts into realizing at the earliest possible date nuclear weapons abolition and everlasting world peace.

In closing, we offer our prayers for the peaceful repose of the souls lost to the atomic bombing, and we sincerely hope that the survivors still suffering from the aftereffects and the bereaved families will receive strengthened comprehensive care and support from the national government.

Masanori Nagata  
Chairperson  
Hiroshima City Council

## 平和宣言

私たちの故郷<sup>ふるさと</sup>には、温かい家族の暮らし、人情あふれる地域の絆、季節を彩る祭り、歴史に育まれた伝統文化や建物、子どもたちが遊ぶ川辺などがありました。1945年8月6日午前8時15分、その全てが一発の原子爆弾で破壊されました。きのご雲の下には、抱き合う黒焦げの親子、無数の遺体が浮かぶ川、焼け崩れた建物。幾万という人々が炎に焼かれ、その年の暮れまでにかげがえのない14万もの命が奪われ、その中には朝鮮半島や、中国、東南アジアの人々、米軍の捕虜なども含まれていました。

辛うじて生き延びた人々も人生を大きく歪められ、深刻な心身の後遺症や差別・偏見に苦しめられてきました。生きるために盗みと喧嘩を繰り返した子どもたち、幼くして原爆孤児となり今も一人で暮らす男性、被爆が分かり離婚させられた女性など——苦しみは続いたのです。

「広島をまどうてくれ！」これは、故郷<sup>ふるさと</sup>や家族、そして身も心も元通りにしてほしいという被爆者の悲痛な叫びです。

広島県物産陳列館として開館し100年、被爆から70年。歴史の証人として、今も広島を見つめ続ける原爆ドームを前に、皆さんと共に、改めて原爆被害の実相を受け止め、被爆者の思いを噛みしめたいと思います。

しかし、世界には、いまだに1万5千発を超える核兵器が存在し、核保有国等の為政者は、自国中心的な考えに陥ったまま、核による威嚇にこだわる言動を繰り返しています。また、核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになり、テロリストによる使用も懸念されています。

核兵器が存在する限り、いつ誰が被爆者になるか分かりません。ひとたび発生した被害は国境を越え無差別に広がります。世界中の皆さん、被爆者の言葉とヒロシマの心をしっかり受け止め、自らの問題として真剣に考えてください。

当時16歳の女性は「家族、友人、隣人などの和を膨らませ、大きな和に育てていくことが世界平和につながる。思いやり、やさしさ、連帯。理屈ではなく体で感じなければならぬ。」と訴えます。当時12歳の男性は「戦争は大人も子どもも同じ悲惨を味わう。思いやり、いたわり、他人や自分を愛することが平和の原点だ。」と強調します。

辛く悲しい境遇の中で思い悩み、「憎しみ」や「拒絶」を乗り越え、紡ぎ出した悲痛なメッセージです。その心には、人類の未来を見据えた「人類愛」と「寛容」があります。

人間は、国籍や民族、宗教、言語などの違いを乗り越え、同じ地球に暮らし一度きりの人生を懸命に生きるのです。私たちは「共に生きる」ために、「非人道性の極み」、「絶対悪」である核兵器の廃絶を目指さなければなりません。そのための行動を始めるのは今です。既に若い人々による署名や投稿、行進など様々な取組も始まっています。共に大きなうねりを創りましょう。

被爆70年という節目の今年、被爆者の平均年齢は80歳を超えました。広島市は、被爆の実相を守り、世界中に広め、次世代に伝えるための取組を強化するとともに、加盟都市が6,700を超えた平和首長会議の会長として、2020年までの核兵器廃絶と核兵器禁止条約の交渉開始に向けた世界的な流れを加速させるために、強い決意を持って全力で取り組みます。

今、各国の為政者に求められているのは、「人類愛」と「寛容」を基にした国民の幸福の追求ではないでしょうか。為政者が顔を合わせ、対話を重ねることが核兵器廃絶への第一歩となります。そうして得られる信頼を基礎にした、武力に依存しない幅広い安全保障の仕組みを創り出していかなければなりません。その実現に忍耐強く取り組むことが重要であり、日本国憲法の平和主義が示す真の平和への道筋を世界へ広めることが求められます。

来年、日本の伊勢志摩で開催される主要国首脳会議、それに先立つ広島での外相会合は、核兵器廃絶に向けたメッセージを発信する絶好の機会です。オバマ大統領をはじめとする各国の為政者の皆さん、被爆地を訪れて、被爆者の思いを直接聴き、被爆の実相に触れてください。核兵器禁止条約を含む法的枠組みの議論を始めなければならないという確信につながるはずです。

日本政府には、核保有国と非核保有国の橋渡し役として、議論の開始を主導するよう期待するとともに、広島を議論と発信の場とすることを提案します。また、高齢となった被爆者をはじめ、今この時も放射線の影響に苦しんでいる多くの人々の苦悩に寄り添い、支援策を充実すること、とりわけ「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

私たちは、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、被爆者をはじめ先人が、これまで核兵器廃絶と広島の復興に生涯をかけ尽くしてきたことに感謝します。そして、世界の人々に対し、決意を新たに、共に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすよう訴えます。

平成27年（2015年）8月6日

広島市長 松 井 一 實

## 平和への誓い

昨年の8月20日、土砂災害に巻き込まれ、大切な仲間の一人を失いました。  
今まで、当たり前のように一緒に過ごしていた仲間が、突然いなくなるという悲しみを知りました。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分  
照りつける太陽の下、一発の原子爆弾が、建物、自然、そして、たくさんの人々の大切な命を奪いました。  
この日のことを経験していない私たちですが、大切な人を失う悲しみは、想像することができます。

あの日から70年  
今の広島は、色とりどりの花が咲き、緑豊かで、みんな笑顔で過ごすことのできる素敵な街です。

この街で、今、私たちは、平和への思いを感じています。  
平和を考えるきっかけは、身近なところにあります。

平和記念公園で見たたくさんの折り鶴  
広島平和記念資料館を訪れて知った原子爆弾による被害の事実  
悲しみ、苦しみとともに、平和への強い思いが込められた被爆体験者の話  
そして、私たちこども代表による「平和への誓い」

祖父母たちが、この70年間ヒロシマを生き抜いて、私たちに命をつないでくれました。

私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちができることから、  
「小さな平和」をつくろうとしています。

もう一度、身近な友達、世代の違う人々、様々な国や地域に住む人々と、平和について共に考えてみませんか。

広島に育つ私たちは、  
事実を  
被爆者の思いや願いを  
過去 現在 未来へと  
私たちの平和への思いとともにつないでいく一人となることを誓います。

平成27年(2015年)8月6日

こども代表

広島市立白島小学校6年

桑原 悠露

広島市立矢野南小学校6年

細川 友花

## Commitment to Peace

August 6, 2015

On August 20 last year, we lost one of our fellow students in a disastrous landslide.  
We came to know the grief that comes from suddenly losing a friend we took for granted.

8:15 a.m., August 6, 1945  
Under the blazing sun, a single atomic bomb stole away buildings, nature, and countless precious lives.  
Though we didn't experience what happened that day, we can now better imagine the despair that comes with losing loved ones.

Seventy years have passed.  
Now, Hiroshima is a beautiful city with lush greenery and colorful, blooming flowers where we can all smile and be happy.

In this city we feel the desire for peace.  
All around us are things that bring peace to mind:  
The many paper cranes we see in Peace Memorial Park;  
The A-bomb damage we see in the Peace Memorial Museum;  
The *hibakusha* stories, with their sorrow, agony, and powerful desire for peace;  
And this *Commitment to Peace*, which we, Children's Representatives, now read aloud.

Our grandparents survived the bombing and lived on these past 70 years in Hiroshima, passing life on to us.

Accepting this legacy of life and love of peace, we think about what we can do and work to create "everyday peace."  
Won't you, too, think more about peace with close friends, people of different generations, and people who live in other countries and regions?

We, children of Hiroshima,  
Vow one by one  
To connect the truth,  
The hopes and desires of the *hibakusha*,  
And our own desire for peace,  
From the past and present  
To the future.

Children's Representatives:

Yuro Kuwahara (6<sup>th</sup> grade, Hiroshima City Hakushima Elementary School)

Yuka Hosokawa (6<sup>th</sup> grade, Hiroshima City Yano-minami Elementary School)

# ひろしま平和の歌

## Hiroshima Peace Song

広島市選定  
重園資雄 作詞  
山本秀 作曲

Selected by Hiroshima City  
Words by Yoshio Shigezono  
Music by Minoru Yamamoto

くもしろく たなびくところそ  
Ku - mo shiro - ku ta - na - bi - ku to - ko - ro. So -  
らのはて ひがしににしに  
ra no ha - te hi - ga - shi ni ni - shi ni, O -  
おたかくこだまひびけと  
o ta - ka - ku ko - da - ma hi - bi - ke to, Ka -  
ねはなる 平和のかねに  
ne wa na - ru he - i - wa no ka - ne ni, I -  
まわれら おおしくたちてそ  
ma wa - re - ra o - o - shi - ku ta - chi - te, So -  
のさかえ ここにおこさん  
no sa - ka - e ko - ko ni o - ko - san.

ひろしま平和の歌を  
みなさんと合唱しましょう

Let's sing the Hiroshima  
Peace Song together!

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 雲白くたなびくところ<br/>空のはて東に西に<br/>おお高くこだまひびけと<br/>鐘は鳴る平和の鐘に<br/>いまわれら雄々しく起ちて<br/>その栄えここに興さん</p> | <p>1 Kumo shiroku tanabiku tokoro<br/>Sora no hate higashi ni nishi ni<br/>O takaku kodama hibike to<br/>Kane wa naru heiwa no kane ni<br/>Ima warera o-oshiku tachite<br/>Sono sakae koko ni okosan</p> |
| <p>2 波青くたゆとおとところ<br/>海のはて南に北に<br/>おお遠く祈りとどけと<br/>鐘は鳴る平和の鐘に<br/>いまわれら試練を越えて<br/>その行手ここに仰がん</p>  | <p>2 Nami aoku tayuto tokoro<br/>Umi no hate minami ni kita ni<br/>O toku inori todoke to<br/>Kane wa naru heiwa no kane ni<br/>Ima warera shiren o koete<br/>Sono yukute koko ni aogan</p>              |
| <p>3 風清くかがやくところ<br/>国のはて世界の友に<br/>おお熱く想いかよえと<br/>鐘は鳴る平和の鐘に<br/>いまわれら手をさし伸べて<br/>その睦みここに歌わん</p> | <p>3 Kaze kiyoku kagayaku tokoro<br/>Kuni no hate sekai no tomo ni<br/>O atsuku omoi kayoe to<br/>Kane wa naru heiwa no kane ni<br/>Ima warera te o sashinobete<br/>Sono mutsumi koko ni utawan</p>      |

広島市を世界平和の原点にしようという願いから、昭和22年8月に「平和祭」を挙行するにあたり、同年7月、主催団体である広島平和祭協会（会長 広島市長 濱井信三）が歌詞を公募し、豊田郡の中学校教師 重園資雄氏の作品が選ばれ、山本秀氏（広島教育音楽連盟）が作曲しました。

敬けんな祈りの中で厳粛に行われた同年8月6日の第1回広島平和祭で高らかに合唱されました。以後、平和記念式典で歌い継がれている清らかな歌です。

**平和記念式典に寄せる  
潘基文(パン・ギムン)国連事務総長メッセージ**

**広島、2015年8月6日**

キム・ウォンス軍縮担当上級代表代行が代読

広島の被爆70周年を記念する厳粛な平和記念式典に御参列の皆様、このメッセージをお送りできることを光栄に思います。主催者並びに本日この式典に参列されている皆様に対し感謝の意を表します。この式典は、広島から世界中のあらゆる人々の心に響き渡り、核兵器廃絶を確実に達成するため早急に行動を起こす必要があることを思い起こさせるに違いありません。

紛争において核兵器が初めて使用されてから70年が経過しましたが、この肅々とした式典は、あの日亡くなった数万人の方々を追悼するとともに、その後耐え難い苦難を経験してきた被爆者の方々に敬意を払うものです。国連は、被爆者の方々と心をつなにし、核兵器のない世界という被爆者の理想を実現していく決意を固めています。

私自身、5年前に広島を訪れた際、その思いは一層強いものとなりました。被爆者の方々とお会いし、被爆の実相や今なお残る影響を目にしたことを私は一生忘れないでしょう。人類が引き起こしたこの壊滅的な悲劇を生き抜いた人々の勇気に、私は深く心を動かされました。「被爆者」は単なる生存者ではありません。被爆者は比類なき平和の擁護者です。彼らはその悲惨な体験から、世界の不安化を招くこの無差別兵器が廃絶される日がいつの日か訪れるという希望のメッセージを生み出したのです。

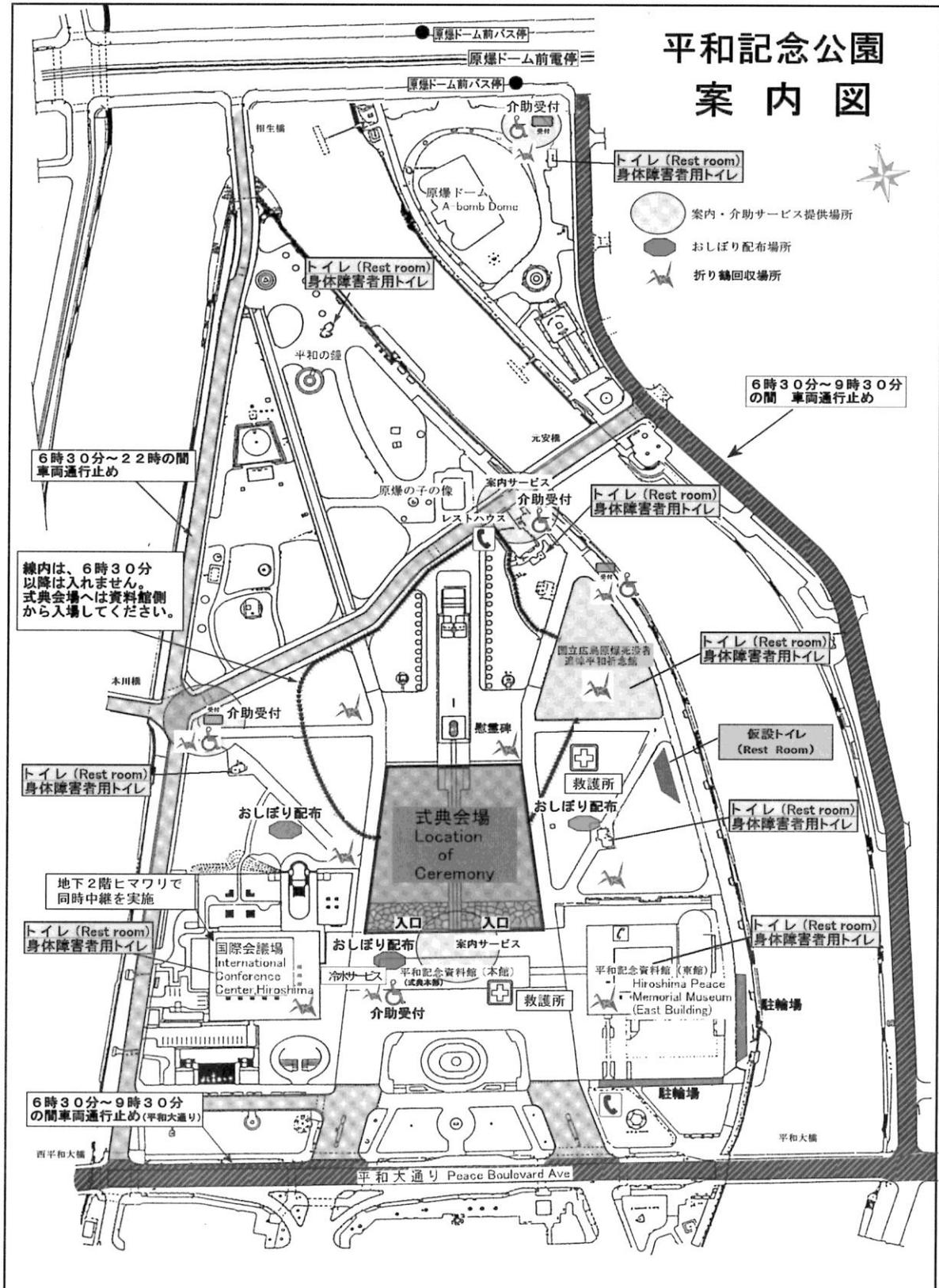
私は被爆者の方々の勇敢さに敬意を表するとともに、核の脅威のない、より安全かつ平和な世界を実現するという我々の共通の大義を推し進めていく決意を新たにしています。

今年国連創設70周年でもあります。国連総会で初めて採択された決議には、原子爆弾の使用に対する世界の憂慮が反映されていました。皆様が被爆の記憶を継承して下さっているように、国際社会も核兵器が廃絶されるまで尽力し続けなくてはなりません。

皆様のスローガンに賛同します。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ」

被爆後数カ月は、「広島には75年間は草木も生えないだろう」と言われていました。70年経った今、活気溢れる広島は、その市民の回復力を証明し、人類の不屈の精神を象徴する都市となっています。広島は世界に勇気を与えており、国際社会は核兵器のない世界を実現することにより広島の経験を生かす責務を負っています。

# 平和記念公園 案内図



刊行物番号
2015 - 156

---

平成27年度調布市中学生広島平和派遣報告書

---

発行日：平成27年11月

発行：調布市

編集：生活文化スポーツ部文化振興課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話：042-481-7139（直通）

FAX：042-481-6881

E-mail：bunsin@w2.city.chofu.tokyo.jp